



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. **3**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成18年10月1日発行

【編集発行】県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

県内自治体や金融機関と包括的連携・協力協定を締結



庄原市（3月29日）



三原市（4月7日）



広島信用金庫（5月19日）



しまなみ信用金庫（7月13日）

本学は、今年3月から7月にかけて庄原市や三原市など県内自治体のほか、広島信用金庫やしまなみ信用金庫など民間金融機関と、より緊密かつ組織的な連携協力体制を築くため、包括協定を相次いで締結しました。これは、まちづくりやひとづくり、産業振興や保健福祉の向上、教育・文化・生涯学習の支援、そして環境政策の推進といった地域の諸課題の解決に協力するためです。加えて、地域企業の活性化や中小企業における新規事業の創出や創業支援、そして技術相談や共同開発といった地域企業のニーズにこたえるため、大学と自治体・民間金融機関が個々に持つ情報やノウハウ・ネットワークなどを相互に共有し、地域社会や企業の発展に貢献いたします。今後本学では、地域のニーズをふまえた研究に積極的に取り組むとともに、その成果を地域に還元することに努めます。自治体や金融機関側も大学の知的資源や研究シーズ（種）を活用し、市民サービスの向上や地域・企業の活性化を目指しており、こうしたコラボレーション（共同作業）の実現により、地域社会全体のさらなる発展が期待されます。

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

産学官の連携事業

本学と三原市は包括的連携・協力協定を4月7日、三原市内のホテルで調印しました。これまでも、本学の知的資源を市民に伝えるリカレント講座などの連携はありましたが、今後より緊密かつ組織的な連携協力体制を築き、地域に根ざした教育・研究の充実と地域社会への貢献を図ることが期待されています。

その一貫として三原市では、今年度の新規事業として「県立広島大学研究開発助成事業」が実施されています。この助成事業は、本学に所属する研究者が、所有するシーズを活用して、三原市における保健・医療・福祉の向上、産業振興、環境保全等に関連する研究開発を行い、その研究開発成果を三原市へ還元することを目的としています。応募された研究テーマは13件あり、協議の結果、下記の4件の研究開発事業が採択されました。どの研究テーマも健康に焦点をあてており、三原市から健康づくりの提案ができると期待されています。



県立広島大学研究開発助成事業

研究開発課題	所属学部学科	代表研究者
佐木島の自然環境（島廻路と砂浜）を生かした健康づくり	保健福祉学部 理学療法学科	大塚 彰
特定高齢者の介護予防モデルの開発とその効果検証	保健福祉学部 理学療法学科	辻下 守弘
三原市におけるライフステージごとの子育て支援ニーズと地域における援助資源に関する調査	保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也
肥満調査・肥満予防プログラム策定に向けた日常身体活動と肥満指標解析	保健福祉学部 看護学科	堂本 時夫

子育て支援プロジェクトについて

保健福祉学部 人間福祉学科
講師 細羽 竜也

日本での「子育て」は、古くは、世代間での互助や近隣の互助により行われてきました。しかし、現在では、核家族が普通になり、世代で協力しながらの子育てが難しくなりました。また、近隣の人間関係がないに等しく、子育ての協力など困難な地域もあります。子どもの遊びも様変わりしました。みんなで集まって戸外で遊ぶ機会が少なくなり、仲の良い友人同士が家でゲームに興じることが多くなりました。保護者については、共働きが増え、子どもとの時間がなかなか取れないことが多くなりました。そして、忙しい生活の中で、ふと自分のお子さんの様子が他の子と違うことに気づき、しかしどこに相談したら良いか分からず、不安になる保護者の方もいらっしゃいます。

マクロ的には子育てを支えてきた家庭や近親、地域のサポート力は、近年、弱化の一途を辿っています。国の調査でも、子育てに不安を覚える家庭は多く、行政による支援の必要性が国レベルで検討されるようになりました。近年は、我々大学教員にも地域からの要請で子育てに関わる様々な問題について講演や研修を依頼されることが多くなりました。今までは、そうした子育て支援ニーズに対して、個々の教員が各々の専門知識にもとづき対応してきたのですが、多くの場合、問題の背景が多岐に渡っていて、問題の解決には学問横断的な知識が必要と実感しておりました。

本年度からは、学問横断的な連携の必要性を感じている保健福祉学部の有志の教員が集まり、組織的に大学から地域への援助を行うためのプロジェクトを立ち上げました。プロジェクトに参加されている先生方はお忙しい方ばかりなのですが、本キャンパスの新たな試みに熱心に取り組まれています。まだ立ち上がったばかりで、プロジェクトが地域に果たす役割を模索しながらの歩みではありますが、大学の新しい社会的役割を創り出す作業でもあり、やりがいを感じながら取り組んでいます。今後は、地域の子育ての悩みに多方面の専門知識を提供することで、地域とともに歩む大学として、地域の期待にわずかでも応える努力を重ねていくつもりです。よろしくお祈りします。

地域との連携活動紹介

三原やっさ祭り

三原市では毎年8月に「やっさ祭り」が行われ、市民が一体となって三原の夜を踊り明かします。三原キャンパスでは、本学教員とボランティア部が地域の保健・福祉関係者と共に運営している三原ケアネットワークで「明日に架ける橋チーム」を結成し、祭りに参加しています。目標は、



障害の有無等に関係なく、誰もが楽しく祭りに参加できることです。今年も総勢約200名で楽しく踊り、みごとスマイル賞を受賞しました。

三原シティカレッジ'06

三原地域連携推進協議会と共催して三原シティカレッジ'06を開講しています。今年度は市民講座6講座、専門職講座7講座を企画しました。



▲マンモグラフィ技術者養成講座

これから予定している講座の詳細内容はホームページ (<http://www.mhr-cci.org/renkei/>) をご覧ください。

ピアエデュケーションによる「生と性の健康教室」

健康指向を持つ保健福祉学部の学生が、高校2年生を対象にピアエデュケーション(仲間教育)による、「生と性の健康教室」



を開催しました。参加人数は、8月24・29・30日の3日間で、11クラス延べ375名でした。

この活動は本学が学校保健と地域保健の連携と支援を受けながら進めているもので、学生は5月から学習会を行い健康教室の本番に向けて準備をしました。従来の指示的な健康教育とは違い、同世代からの知識や情報の提供は高校生にも高く評価されています。

実施報告

市民生涯学習講座

実施期間：7月12日～8月9日毎週水曜日

テーマ：あなたの健康まもれていますか？

共催：三原市教育委員会

「安全で楽な介助移動方法」講座
講師の見守り中、ベッドから車イスへの移動実習などを行いました



公開講座

個人・家族支援の基礎

期間：7月29日(土) 1回

講師：人間福祉学科 勝見 吉彰 助教授
加茂 陽 教授

受講者の声 (アンケートより)

カウンセリングの基礎は順序よく、療法内容から見立て方、援助のあり方と進められ理解しやすかった。

家族療法は、問題解決の見通しが明らかになる家族の人間関係のズレを修正理解しあうことの大切さを改めて学びました。

今後の講座等のご案内

第2回 三原キャンパスツアー

日時：11月11日(土) 11:00～

定員：30名(事前申込必要・先着順)

申込先：三原地域連携センターまで

第1回キャンパスツアー
人体動態研究室にて教員の研究を見学しました



広島保健福祉学会第7回学術大会



私達は手っ取り早く健康になりたいがります。マスコミ等で「〇〇が身体に良い」と聞けば、多くの人が飛びつきます。しかし、情報に振り回されたり、人と比較したりするのではなく、自分主役の健康づくりが、今求められています。この度、愛媛県においてヘルスプロモーション(健康づくり)推進に主導的役割を果たして来られた愛媛大学医学部榎本先生のご講演と各専門職による実践報告を企画しました。多数ご参加下さい。

テーマ：ヘルスプロモーション(健康増進)に挑む

内容：特別講演及び実践報告

日時：平成18年11月11日(土) 13:00～17:00

場所：三原キャンパス1号館1階大講義室

定員：200名

申込方法：三原地域連携センター「学術大会」宛に

①氏名②職業③連絡先をご連絡ください。

広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

産学連携

第3回ひろしまビジネスマッチングフェア 2006に出展

平成18年9月7日、県立広島産業会館において開催された第3回ひろしまビジネスマッチングフェア2006(広島銀行、ひろしま産業振興機構、広島商工会議所、中国地域ニュービジネス協議会主催)に参加し、各学部を代表する13点のパネル展示等を行いました。

フェアでは基調講演に引き続き、100社余の企業や地元大学の展示会、出展企業によるプレゼンテーション、事前商談会が行われたほか、大学との共同研究など、相談コーナーも設けられました。

産学連携講座「食と農を考える」

期間：平成18年6月～10月

会場：ひろしんインキュベーションセンター

平成18年5月に広島信用金庫と包括協定を締結しましたが、その取り組みの一つとして県内の事業者の方々を対象とし、二つのテーマで産学連携講座を開催しました。

研究テーマⅠ	都市近郊型農業の事業化
講師	黒木英二・宮本 誠・玉置雅彦・皆田 潔
研究テーマⅡ	消費者ニーズに基づく高機能性食品の事業化
講師	武藤徳男・森永 力・猪谷富雄・近藤 悟・ 栢下 淳・吉野智之

国際交流

JICA研修受け入れ

平成18年6月5日～30日の間、JICA(国際協力機構)の地域別研修・南東欧サポーターリングインダストリーが開催されました。

ブルガリア、クロアチアなど東欧の研修生14名が中小企業振興政策について学び、広島キャンパスでは本学教員による講義やディスカッション、評価会、閉講式などを行いました。



連携公開講座

「近代日本の異文化体験」

期間：平成18年7月22日(土)～8月5日(土)

会場：ひろしま美術館講堂

平成17年10月に本学が広島銀行との間で産学連携協定を締結したことを記念して、ひろしま美術館との連携公開講座を開催しました。

講座では、本学教員とひろしま美術館の学芸員が2人一組となり、土曜日の午後に2講座の講義を担当し、近代日本に導入された西洋文化の受容について、人文学と美術史の両面から詳しく解説しました。

大学と美術館の連携講座という、これまでほとんど例のなかった試みに対して、県民から寄せられる期待は大きく、定員を上回る多くの申し込みがありました。

なお、講座の概要はホームページに掲載しています。

(http://www.pu-hiroshima.ac.jp/investigation/ex_lecture/18/kindai.html)



回	タイトル	講師
1	夏目漱石と英文学	高橋 渡
2	日本における美術館の受容と ひろしま美術館	水木 祥子
3	近代日本の教育と原英学校	馬本 勉
4	日本におけるゴッホ受容	古谷 可由
5	倉田百三の精神世界～『出家とその 弟子』再読～	坂根 俊英
6	大正期の画家たちと“りんご”	渡辺 純子

高大連携公開講座

平成18年8月17・18・21日の3日間、高大連携事業の一環として、高校生を対象とした公開講座を開催しました。

人間文化学部の「人間文化学への招待～国際文化学科で何を学ぶか」、人間文化学への招待～健康科学科で何を学ぶか、経営情報学部の「情報セキュリティ入門～コンピュータウイルスから個人情報保護まで～」には、134人の申し込みがありました。

講座終了後には、「講義資料を見た時には難しそうだったと思ったが、先生の説明がわかりやすく、丁寧だったので興味をもつことができた」、「高校で学んでいない部分を勉強できて楽しかった」、「高校で習った内容の理解を深めることができた」、「大学に入ってもっと勉強したい」などの感想が寄せられました。



研究紹介

小説と絵画から文化を探る

人間文化学部国際文化学科 教授 天野みゆき

「わたしたちが芸術家に負う最大の恩恵は、共感の拡大である。」これは19世紀イギリスを代表する作家の一人、ジョージ・エリオット（実は女性作家）の言葉です。彼女は、他者への共感、とりわけ環境も考え方も異なる人々の苦しみや心情を思いやる力を読者の内に生じさせることを第一の目的とし、様々な人物の葛藤を描きました。相反する意見が同等の正当性を持つとき、いかに利己主義を排すべきか、また、どの程度まで自己の信念を貫くべきかという問題意識により、人間の心に秘められたものをあぶりだしたのです。現代的なテーマを核としつつ、芸術や科学、哲学に関する知識を駆使して構築された作品世界は、当時のイギリス社会と文化の縮図とも言えます。エリオットと他の作家や画家たちとの間に見出される対話的な関係から異なるジャンル間、階級間の相互作用を探り、19世紀イギリス文化の形成と変容、そして現代への継承を明らかにしたいと考えています。

また、昨年度の本学重点研究事業「学生参加による世界遺産宮島の活性化のための学術研究と教育システムの開発」に参加して、巖島を描いた絵画にどのような時代精神や美意識が表現されているか、西洋の風景画と比較する研究を始めました。日本史や日本文学、中国学など異なる分野から学ぶことが多く、共同研究の面白さを感じています。この重点研究事業を基盤としたものが今年度、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択され、人間文化学部全体の取組みとして発展していく予定です。

イノベート広島と国際経営人材の育成

経営情報学部経営学科 教授 小見志郎

2010年への展望を描く企業が増えてきています。デフレ脱却後のビジネス基盤を確かなものにし、グローバルな事業構造を描く動きは、広島でも急速に広まっています。とくに、広島から山口、北九州、大分・国東半島にいたる周防灘沿岸域は、世界的な自動車産業の生産拠点に急速に変貌しています。この域内取引の増勢が、完成車メーカーの海外展開にあわせて広島の部品メーカーのグローバル化を押し進めているからです。

2010年を射程とするもう一つのトレンドは、イノベーションの波です。全米競争力委員会のイノベート・アメリカや日本政府のイノベート日本によって、戦略的な技術開発のロードマップが描きやすい環境になっているとともに、新技術の開発にあわせた競争力のあるビジネスモデルをいかに確立するかが問われています。

広島の企業行動も地域経済も、戦略的にイノベーションの連鎖構造を創り出すことが必要です。そのイノベーションを推進する経営戦略、組織科学からのアプローチとしてのコーディネート科学が注目されています。競争力を柱に、企業の組織文化を効果的に伝播し、国際的に活躍できる中堅管理者層の教育プログラムづくりがいま何よりも望まれています。

イノベート広島

1. ユビキタスネット社会の実現
2. ものづくり技術県の充実
3. 国際競争力の強化

今後の公開講座のご案内

■「ポジティブ・ケアプラン作成に役立つコミュニケーション・トレーニング」

日時：11月11日(土) 14:00～17:00 11月18日(土) 10:00～17:00/会場：広島キャンパス2451教室ほか

■「健康寿命をのばす ―生き生きと毎日を過ごすために―」

日時：11月25日(土) 10:00～16:30/会場：広島キャンパス調理実習室ほか

■「巖島の歴史と文化～宮島の魅力再発見～第二章」(シティカレッジ)

日時：11月11日・18日・25日・12月2日(土) 13:30～16:20/会場：まちづくり市民交流プラザ(中区袋町)

詳細は大学ホームページをご覧ください

(http://www.pu-hiroshima.ac.jp/investigation/ex_lecture/18/index18.html)

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

公開講座

平成18年度 県立広島大学市民公開講座（前期）

備北の歴史と文化 — 備北の魅力再発見

庄原市教育委員会との共催による本講座は、広島県立大学開学の翌年から続いている講座です。今年度は前期、後期の2回行う予定です。前期の公開講座は、6月26日から7月20日まで、「備北の歴史と文化—備北の魅力再発見—」と題し、別表の内容で行われました。備北には自然と共生してきた豊かな歴史とその共生が育んだ文化があり、その魅力を学習することを目的としました。



（講義風景 講師：秋山教授）

回	日時	タイトル	会場	担当
1	6/26 (月)	山内氏と毛利元就	庄原キャンパス	秋山 伸隆
2	7/1 (土)	備北とたたら製鉄文化	庄原中央公民館・西城民俗資料館	野原 建一
3	7/8 (土)	倉田百三の文学	庄原田園文化センター	坂根 俊英
4	7/14 (金)	森林バイオマスを活用した21世紀型の町づくり	庄原キャンパス	早田 保義
5	7/20 (木)	備北のエコツアー	庄原キャンパス	四方 康行

今年度の特徴は、庄原キャンパス以外の教員も講師となり、三大学統合の強みを発揮した点です。また、庄原市西城歴史民俗資料館などに出かけ、フィールドワークも取り入れたことも近年にない試みでした。5回の講義で延べ234人の市民の方々が受講し、62名

の受講生のうち46名が修了証書を受け取りました。

後期の本講座は、「庄原の生活を見つめる—食べる、暮らす、育む」のテーマのもと、5回シリーズで9月29日から10月31日の期間に実施します。

産学官連携

◆しょうばら産学官連携推進機構

5月18日にかんぼの郷庄原にて、滝口季彦市長・玉川忠義庄原商工会議所会頭・赤岡学長の出席のもと、第5回理事会・平成18年度総会を開催し、平成18年度事業計画を決定しました。

事業内容は大きく分けて「マッチング事業」、「プロジェクト事業」、「セミナー事業」、「ソフト事業」で、マッチング事業では自治体や企業等のニーズを地域連携センターに紹介するなど、産学官連携に貢献しています。9月13日には、昨年プロジェクト事業から設立された機能性食品研究会の第3回研究会が開かれました。今回は、農産物生産加工と地域の関わりや、特産物の機能性等についての話題提供がありました。セミナー事業では「元気な地域づくりセミナー」を、黒木英二教授による「地域資源を使った新商品開発のプランづくり」の内容で9月26日に開催しました。今後も、「トップマネジメントセミナー」や「里山環境セミナー」ではバイオマス関連、産学官連携の先進地への見学会等の実施を予定しています。また、当機構のホームページを充実させるとともに地域連携センターのホームページとの相互リンクを考えており、産学官連携のより活発な活動と情報の提供を推進していく予定です。



◆三次イノベーション会議

今年度の総会は、6月2日に開催されました（於みよしまちづくりセンター）。吉岡広小路三次市長、赤岡学長をはじめ、25名が出席しました。会議の議

事は6件で、平成17年度事業報告、同決算報告および監査報告、規約の一部改正、平成18年度事業計画(案)、同予算(案)、役員改選について審議の上、いずれも原案通り可決されました。

このうち、平成18年度事業計画には、産学官連携セミナー2回、ワーキンググループ会議4~5回、企業相談会2~3回、先進地視察研修、コーディネーター事業、産学官技術交流フェアへの参加、会報の発行3~4回などが含まれています。

コーディネーター事業では、県立広島大学の研究内容等を整理し、三次市内事業者へ情報提供するとともに、必要に応じ、ひろしま産業振興機構、広島TLO等のコーディネーター、アドバイザー機能を活用してコーディネーターを図ることになりました。また、9月20日には「なんでも相談会」を開催しました。

国際交流

日本の農村社会研究から中国を考える

生命環境学部 客員研究員 李 富 田



私はこの6月から県立広島大学生命環境学部の客員研究員として来学している李富田と申します。現在、中国四川省にありますが中国西南科技大学経済管理学部管理課学科の教授をしています。昨年度のセンター報にも

ある西南科技大学の代表者による庄原キャンパス訪問が契機となって、この交流が実現しました。

私のこれまでの研究の関心は、主に二つです。ひとつは農村の人的資源をどのように発展させ、管理・運営していくのか、もうひとつは循環型の経済理論とモデルの構築です。都市と農村の経済格差や人口移動の問題、または四川省の人口と持続的経済発展など、11の国家レベルまた省レベルの研究プロジェクトにこれまで関わり、西部中国の農村を中心に実証的な研究を行ってきました。

私自身は、2002年のカナダのLaurentian大学について今回が二度目の国外での研究です。今回は円借款のプログラムで9月まで四方教授のもとで農村社会について研究を行っています。短い期間ではありますが、県立広島大学の教員や学生等と充実した学術交流ができればと思っています。よろしく願います。(李富田先生は、9月18日に研究期間を終え、帰国されました。)

研究紹介

独自の環境浄化を目指した三苦研の挑戦

生命環境学部環境科学科 助教授 三 苦 好 治



主にゴミの焼却によって発生するダイオキシン類(DXNs)は、生態系に極めて深刻な悪影響を及ぼすため、可能な限り無害化しなければなりません。しかしながら、エネルギーの過剰投入を必要とする従来

技術では処理費が高額となるため、多くの自治体で最新式焼却炉の導入が見送られました。現状では灰内部にDXNsを封じ込めて、重金属類の溶出を防ぐ化学処理を施した後、埋設処理されています。DXNsは非常に分解し難いため、このような処理は決して望ましいものではありません。従って、今後は無害化効率を維持しつつ、投入エネルギー量を如何に削減するかが課題の一つになっています。このような状況下、三苦研究室では、人体に対して毒性が低く安全性の高い金属カルシウムをベースにした独自技術で、常温下、DXNsを99%以上の高効率で無害化することに成功しました。その成果は、広島TLOの成立特許第1号となっており、既に2社に技術移転も完了しました。また、本技術は経済産業省やNEDOの助成事業にも採択され、さらなる高度化を図っています。



DXNs分解処理装置

環境分析会社保有のDXNs含有分析廃液の処理装置をラボテック(株)【広島市内】が製作。年内の販売開始を目指しています。

産学連携によるCIO人材育成シンポジウム開催報告

本学では、昨年度、経済産業省からの助成による「17年度産学協同実践的IT教育基盤強化事業」の一環として、「EAに基づく統一的システム管理スキルの育成プログラム」を提案し、採択されました。同プログラムは、今日の産業界において、質・量ともに人材不足が叫ばれている高度情報通信技術者のうち、とくにプロジェクト・マネジャやITアーキテクト、及びCIO（情報化統括責任者）等の高度情報通信人材育成のための教育訓練プログラムの開発、展開を目的とするものです。

この教育訓練プログラムは、今年度以降も、大学、産業界、及び自治体との連携体制のもとで、継続的に展開、発展をはかるものと想定されています。本学では、その趣旨を踏まえ、同教育訓練プログラムを、大学院における「経営情報システム演習」科目の一環として取り込む一方で、本学の産学連携先である(株)広島ソフトウェアセンターにおいても、同教育訓練プログラムのダイジェスト版を、2日間の短期研修コースの形で実施する運びとなっています。

また、そうした今後のプログラム展開にあたり、高度情報通信人材の育成のあり方について、産業界、大学、及び自治体等関係者相互の理解を深めるとともに、大学等高等教育機関における実践的IT教育の強化に向けた具体的な方策等についての意見交換を行うため、6月28日、本学講堂において赤岡功学長の挨拶の後、下記の講師陣による「産学連携によるCIO人材育成シンポジウム」を開催しました。

- ソニー株式会社 取締役 代表執行役副社長 井原 勝美 氏
「ソニーのグローバルビジネスを支えるIT戦略」
- (株)NTTデータ 代表取締役副社長 山下 徹 氏
(経団連 高度情報通信人材部会長)
「高度情報通信人材の育成に向けて」
- KDDI(株) 執行役員情報システム本部長 繁野 高仁 氏
「情報システムのパラダイムシフトとCIOの役割」
- 本学経営情報学部 教授 森田 勝弘 (法務省CIO補佐官)
「大学におけるCIO人材育成への挑戦」
- 東京工業大学大学院 教授 飯島 淳一 氏 (経営情報学会会長)
「パネル討論：いかにしてCIO候補を育てるか」



このシンポジウムでは、企業の経営戦略と一体をなす情報化企画をリードすべき人材像について、有意義な提案と活発な議論とが展開されました。その様子は、本学の講堂を発信拠点として、デジタル会議システムにより、東京赤坂の分会場にもリアルタイム中継されましたが、広島会場には、近隣の企業・公共団体の経営者や職員150名を含む約230名が、また東京会場には首都圏の企業・公共団体の職員約30名が参加し、好評を博しました。

編集後記

センター報第3号をお届けします。今春以降、3キャンパスで実施した産学官連携・国際交流・生涯学習を中心とする事業や、今後予定している企画、そして本学所属の教員や研究員が現在取り組んでいる研究テーマについて紹介しています。

昨年10月に広島銀行と産学連携協定を締結しましたが、今年3月以降も、県内の自治体や民間金融機関と相次いで包括協定を締結しました。これからも地域課題の解決や地域経済の活性化のため、本学の知的資源や研究シーズ(種)の有効活用の方法を探って参りたいと思います。ご支援・ご協力をお願いします。(H)

編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
電話 (082) 251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話 (0824) 74-1704 / E-mail: gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター

〒723-0053 広島県三原市学園町1番地の1
電話 (0848) 60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp